

伊那市地域福祉活動計画に関わるアンケート調査結果

1. 調査概要

1) 目的

伊那市地域福祉活動計画策定に向け、近所付き合いや地域との関わり等に関して市民の考え方や意見を聞き、計画策定の資料として活用する。

2) 調査対象

伊那市内在住で在宅において生活されている高齢者（350件）と20歳以上65歳未満の障害者（150件）を無作為抽出する。

上記件数は上伊那成年後見センターに寄せられる高齢者と障害者の相談件数が約7：3によるため。

3) 実施方法

調査票は無記名とし、配布は郵送し、回収は同封の返信用封筒を用いて郵送で行う。

4) 実施期間

平成25年11月11日(月)～11月29日(金)

5) 回収結果

回収数 299件 (高齢者225件 障害者74件)

回収率 59.8% (高齢者64.3% 障害者49.3%)

6) 調査項目

各項目については、回答なしや複数回答における未回答数等もあり、集計にカウントされないため、必ずしも回収総数と合致しないものもある。

百分比(%)は、原則として少数第2位を四捨五入し、少数第1位まで表示しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。

2. 集計結果

第1章 回答者の属性

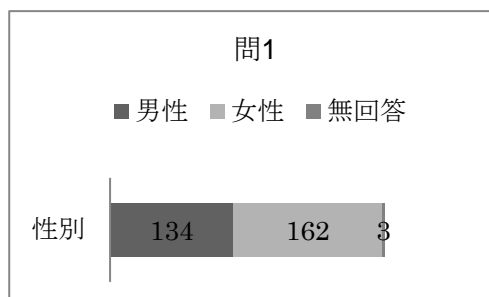
1) あなた自身のことや、ご家族のことについてお伺いします。

問1. あなたの性別はどちらですか。

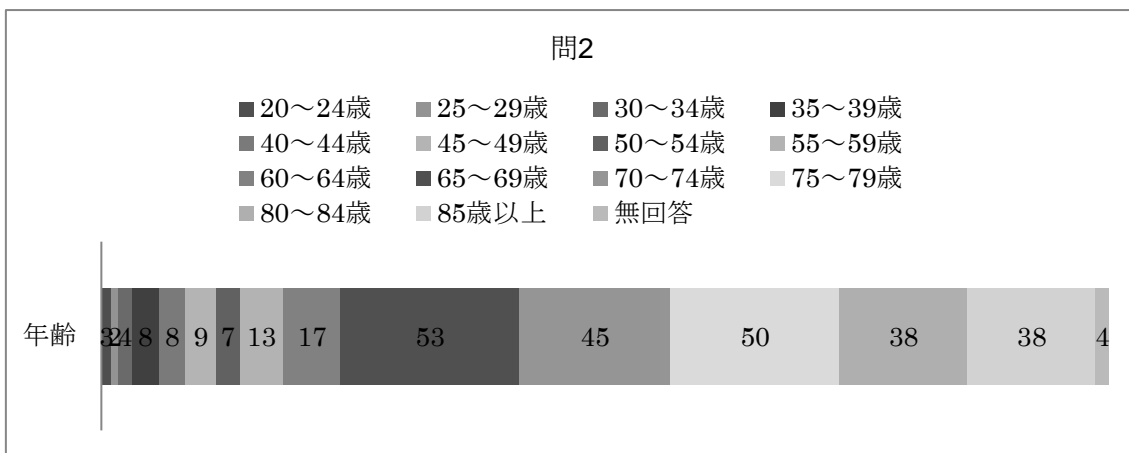
男性 134人

女性 162人

無回答 3人



問2. あなたの年齢はおいくつですか。

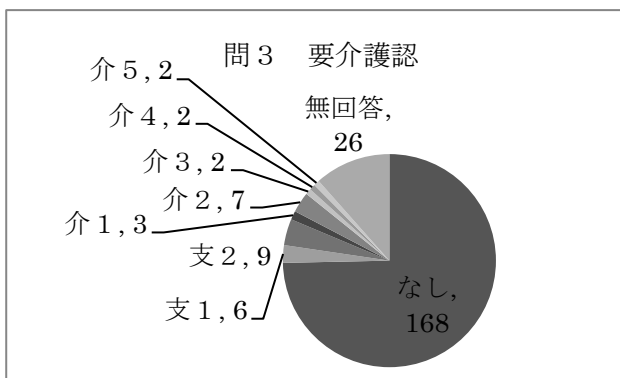


回答された方の年齢層については、65～69歳(53人)、70～74歳(45人)、75～79歳(50人)を合わせて49.5%(148人)で、これらの年齢層の回収率が高くなっている。

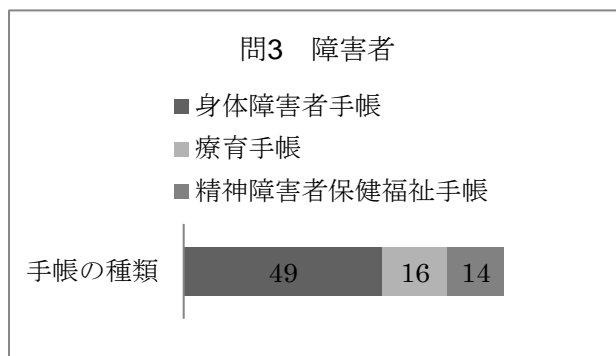
問3. (高齢者) あなたは要介護認定を受けていますか。該当する介護度に○印をおつけください。

(障害者) あなたは身体障害者手帳・療育手帳・精神保健福祉手帳をお持ちですか。該当する等級や区分、障害の種類に○印をおつけください。

| | |
|---------|------|
| 要介護認定なし | 168人 |
| 要支援1 | 6人 |
| 要支援2 | 9人 |
| 要介護1 | 3人 |
| 要介護2 | 7人 |
| 要介護3 | 2人 |
| 要介護4 | 2人 |
| 要介護5 | 2人 |
| 無回答 | 26人 |

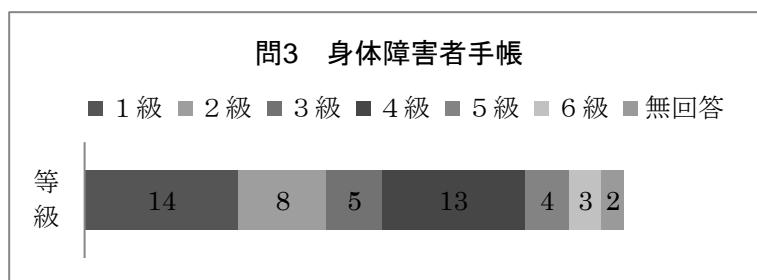


| | |
|-------------|-----|
| 身体障害者手帳 | 49人 |
| 療育手帳 | 16人 |
| 精神障害者保健福祉手帳 | 14人 |
| ※複数所持あり | |



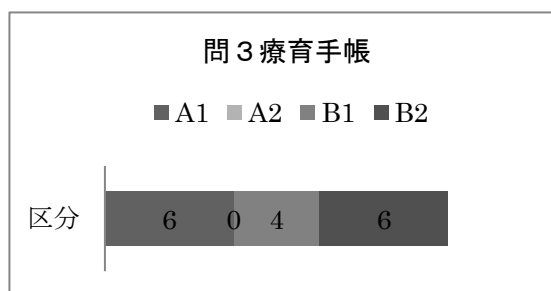
身体障害者手帳

| | |
|-----|-----|
| 1級 | 14人 |
| 2級 | 8人 |
| 3級 | 5人 |
| 4級 | 13人 |
| 5級 | 4人 |
| 6級 | 3人 |
| 無回答 | 2人 |



療育手帳

| | |
|----|----|
| A1 | 6人 |
| A2 | 0人 |
| B1 | 4人 |
| B2 | 6人 |



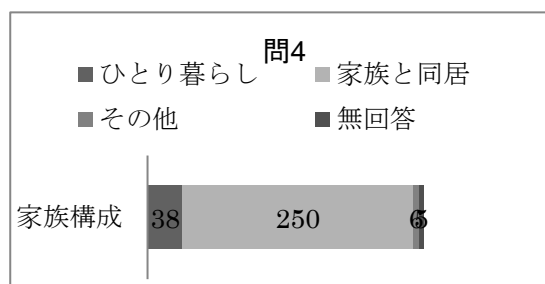
精神保健福祉手帳

| | |
|----|----|
| 1級 | 6人 |
| 2級 | 6人 |
| 3級 | 2人 |

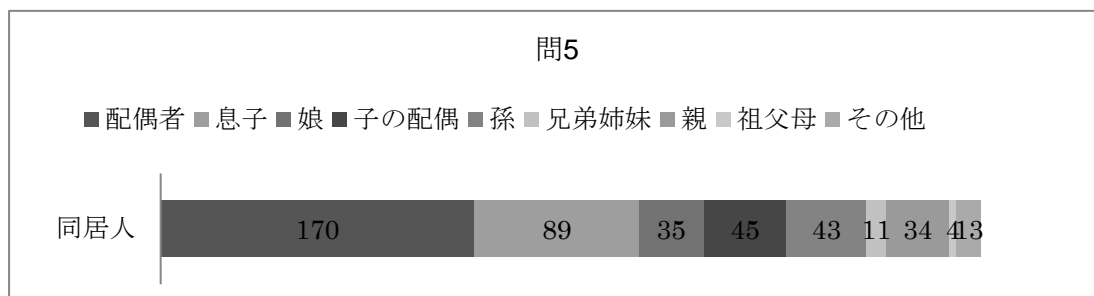


問4. あなたの家族構成を教えてください。

| | |
|--------|------|
| ひとり暮らし | 38人 |
| 家族など同居 | 250人 |
| その他 | 6人 |
| 無回答 | 5人 |



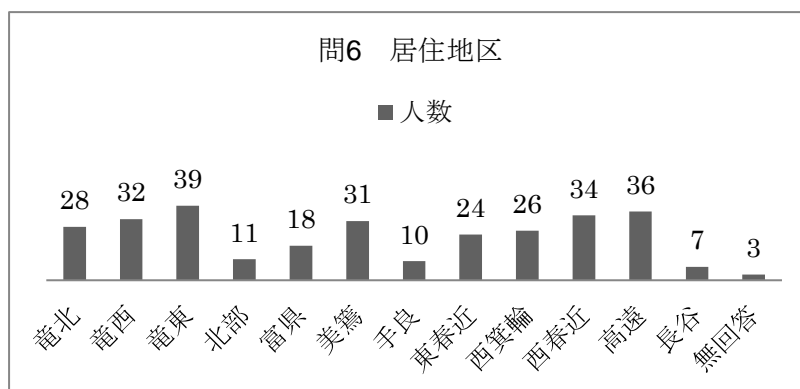
問5. 同居されているのはどなたですか。(問4で「家族などと同居」と答えた方のみ)



| | | | | | |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 配偶者 | 170人 | 孫 | 43人 | その他 | 13人 |
| 息子 | 89人 | 兄弟姉妹 | 11人 | | |
| 娘 | 35人 | 親 | 34人 | | |
| 子の配偶者 | 45人 | 祖父母 | 4人 | | |

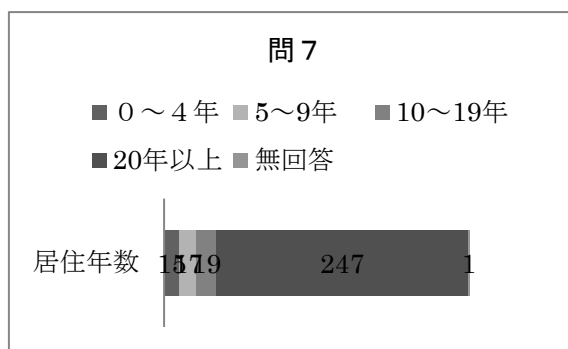
83.6% (250人) が家族などと同居されており、多くが配偶者や子(息子・娘)、子の配偶者などと同居している。

問6. あなたのお住まいの地区はどこですか。



問7. 現在の地区に何年お住まいですか。

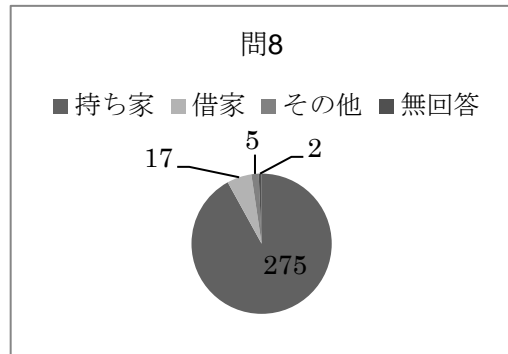
| | |
|--------|------|
| 0～4年 | 15人 |
| 5～9年 | 17人 |
| 10～19年 | 19人 |
| 20年以上 | 247人 |
| 無回答 | 1人 |



82.6% (247人) が20年以上、同じ地区に住んでいる。

問8. あなたが現在お住まいの住宅は次のうちどれですか。

持ち家 275人
 借家 17人
 その他 5人
 無回答 2人



92.0% (275人) が持ち家に住んでいる。
 また、問7の20年以上同じ地区に住んでいる方の98.8% (244人) が持ち家に住んでいる。

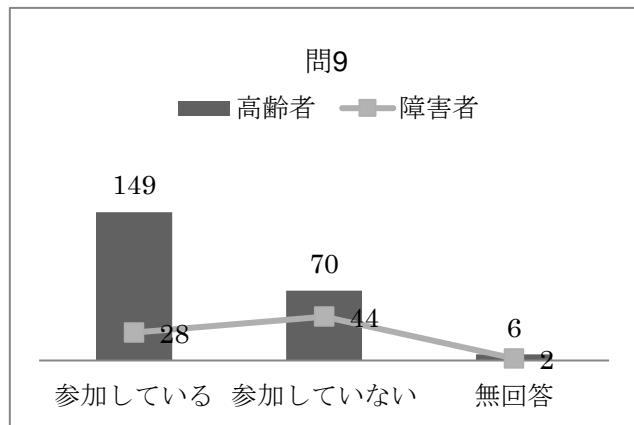
第2章 地域や近所との関わりについて

2) 地域や近所とのかかわりについてお伺いします。

問9. あなたは町内会・自治会・区などの活動に参加していますか。

高齢者
 参加している 66.2% (149人)
 参加していない 31.1% (70人)
 無回答 2.7% (6人)

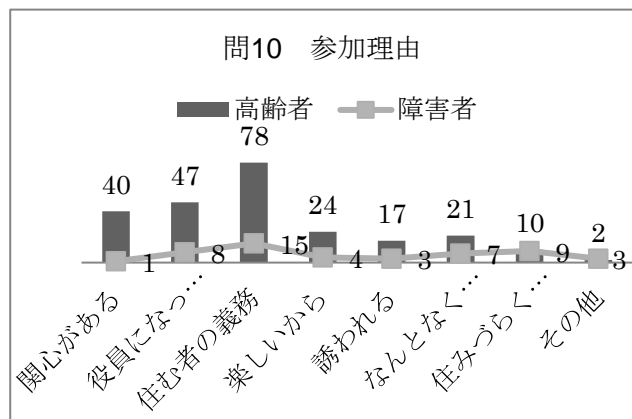
障害者
 参加している 37.8% (28人)
 参加していない 59.6% (44人)
 無回答 2.7% (2人)



高齢者は66.2% (149人) が町内会等の活動に参加しているが、障害者は37.8% (28人) と低い。

問10. 町内会・自治会・区などの活動に参加している主な理由は何ですか。○は2つまで。(問9で「参加している」と答えた方のみ)

高齢者
1位 地域に住む者の義務だから 34.7% (78人)
2位 地域団体や町内会・自治会・区などの役員になっているから 20.9% (47人)
3位 行事や活動の内容に興味や関心があるから 17.8% (40人)



障害者

- 1位 地域に住む者の義務だから 20.3% (15人)
- 2位 参加しないと住みづらくなるから 12.2% (9人)
- 3位 地域団体や町内会・自治会・区などの役員になっているから 10.8% (8人)

高齢者、障害者ともに「地域に住む者の義務だから」、「町内会などの役員になっているから」といった責任感からくる理由が上位にある。

高齢者は「行事や活動の内容に興味や関心がある」(3位)、「大勢で活動するのが楽しいから」(4位)という理由での参加が高いのに対し、障害者は「行事や活動の内容に興味や関心がある」(8位)、「大勢で活動するのが楽しいから」(5位)と低い。また、障害者の「参加しないと住みづらくなるから」(2位)という点も今後、着目していく必要があると思われる。

問11. 町内会・自治会・区などの行事に参加しない(できない)主な理由は何ですか。

○は2つまで。(Q9で「参加していない」と答えた方のみ)

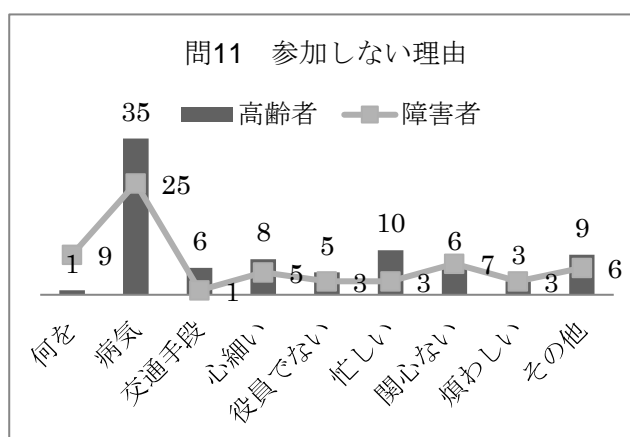
高齢者

- 1位 病気や障害など身体的な理由で参加しづらいから 15.6% (35人)
- 2位 仕事・家事・介護・育児・自分の余暇活動など、他にやることあって忙しいから 4.4% (10人)
- 3位 その他 4.0% (9人)

*高齢のため子どもの代に譲った(類似3人)

*自治会に加入していない

* (今、住んでいる地区ではない)別の地区で参加している など



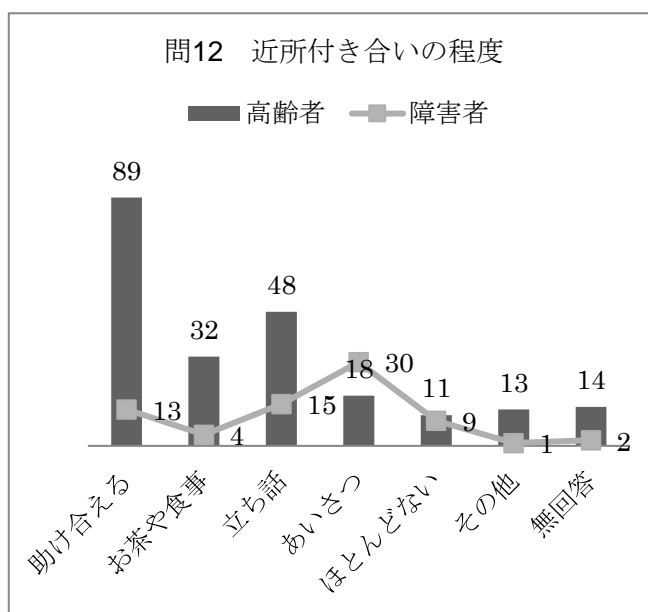
障害者

- 1位 病気や障害など身体的な理由で参加しづらいから 33.8% (25人)
- 2位 何を、いつ、どこでやっているのかわからないから 12.2% (9人)
- 3位 活動や行事の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから 9.5% (7人)

高齢者、障害者ともに「病気や障害など身体的な理由で参加しづらい」が1位であるが、次いで高齢者は「仕事・家事・介護・育児・自分の余暇活動など、他にやることあって忙しい」と何かしらの別の活動を行っているため参加しない(できない)のに対し、障害者は行事に関する情報がない、行事に興味や関心がないが多く、地域社会から隔絶されている(している)と思われる。

問12. 近所とどの程度お付き合いをしていますか。

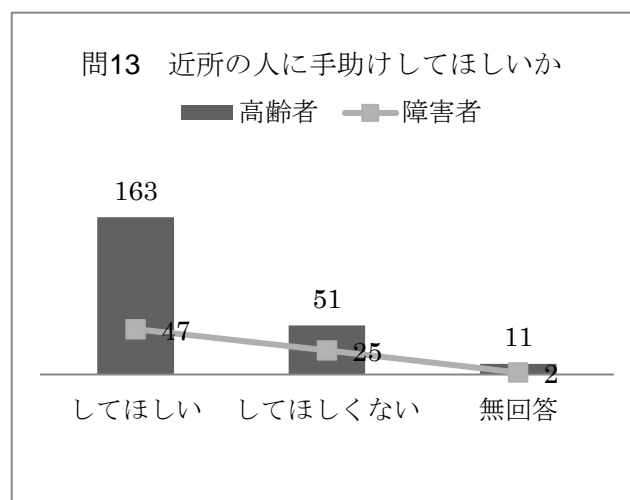
| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 高齢者 | |
| 1位 | 困ったときに助け合える程度 <u>39.6%</u> (89人) |
| 2位 | 立ち話をする程度 <u>21.3%</u> (48人) |
| 3位 | お茶や食事をする程度 <u>14.2%</u> (32人) |
| 障害者 | |
| 1位 | あいさつをする程度 <u>40.5%</u> (30人) |
| 2位 | 立ち話をする程度 <u>20.3%</u> (15人) |
| 3位 | 困ったときに助け合える程度 <u>17.6%</u> (13人) |



高齢者は「困ったときに助け合える程度」が 39.3%と高いのに対し、障害者は 17.6%と低く、「あいさつをする程度」が 40.5%と高い。また、「立ち話をする程度」20.3%、「付き合いはほとんどない」12.2%であり、高齢者よりも近所付き合いが希薄であると思われる。

問13. 困ったときに近所の人に手助けをしてもらいたいですか。

| | |
|------------|---------------------|
| 高齢者 | |
| 手助けしてほしい | <u>72.4%</u> (163人) |
| 手助けしてほしくない | <u>22.7%</u> (51人) |
| 無回答 | <u>4.9%</u> (11人) |
| 障害者 | |
| 手助けしてほしい | <u>63.5%</u> (47人) |
| 手助けしてほしくない | <u>33.8%</u> (25人) |
| 無回答 | <u>2.7%</u> (2人) |



高齢者は多くの方が困ったときに近所の人に手助けをしてもらいたいと思っているのに対し、障害者は手助けしてほしい人と手助けをしてほしくない人の割合がおよそ半分である。

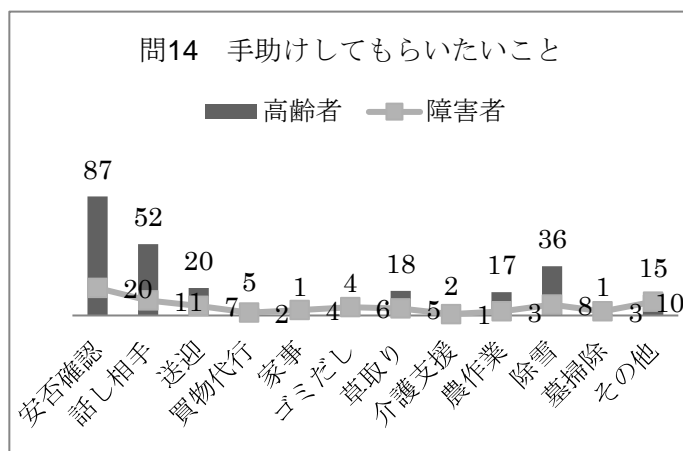
問14. どのような事を手助けしてもらいたいですか。○はあてはまるものすべて。
(問13で「手助けしてほしい」と答えた方のみ)

高齢者

- 1位 安否確認や見守り合い 53.4% (87人)
- 2位 話し相手 31.9% (52人)
- 3位 除雪 22.1% (36人)

障害者

- 1位 安否確認や見守り合い 42.6% (20人)
- 2位 話し相手 23.4% (11人)
- 3位 その他 21.3% (10人)



*今は自分でできているので特にないが、将来お願いしたい (類似4人)
*一人でいるとき、どうしていいかわからないとき
*難聴なので市の音声での情報を知らせてほしい

高齢者、障害者ともに「安否確認や見守り合い」、「話し相手」が高い。高齢者は「草取りや庭木の剪定」(11.0%)、「農作業の支援」(10.4%)、「除雪」(22.1%)といった労働の手助けの希望が多い。また、「通院や買い物の送迎」(12.3%)といった、日常生活での足の確保を希望していることがわかる。

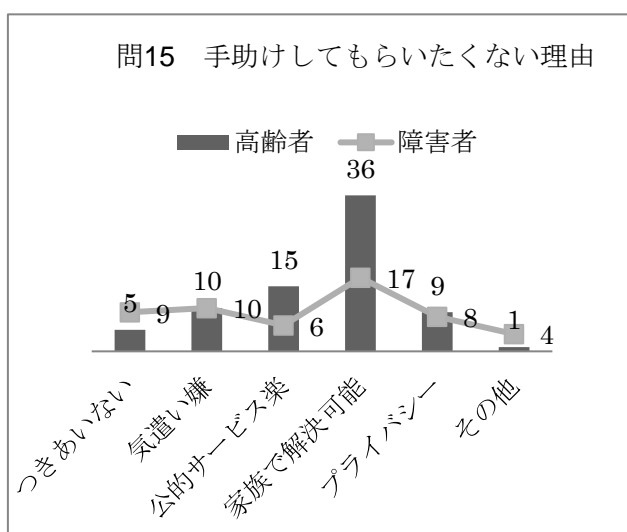
問15. 近所の人に手助けをしてもらいたくない理由は何ですか。○はあてはまるものすべて。(問13で「手助けしてもらいたくない」と答えた方のみ)

高齢者

- 1位 家族や親族で解決できるから 70.6% (36人)
- 2位 公的サービスを利用した方が気が楽だから 29.4% (15人)
- 3位 近所の人に気を使うことが嫌だから 19.6% (10人)

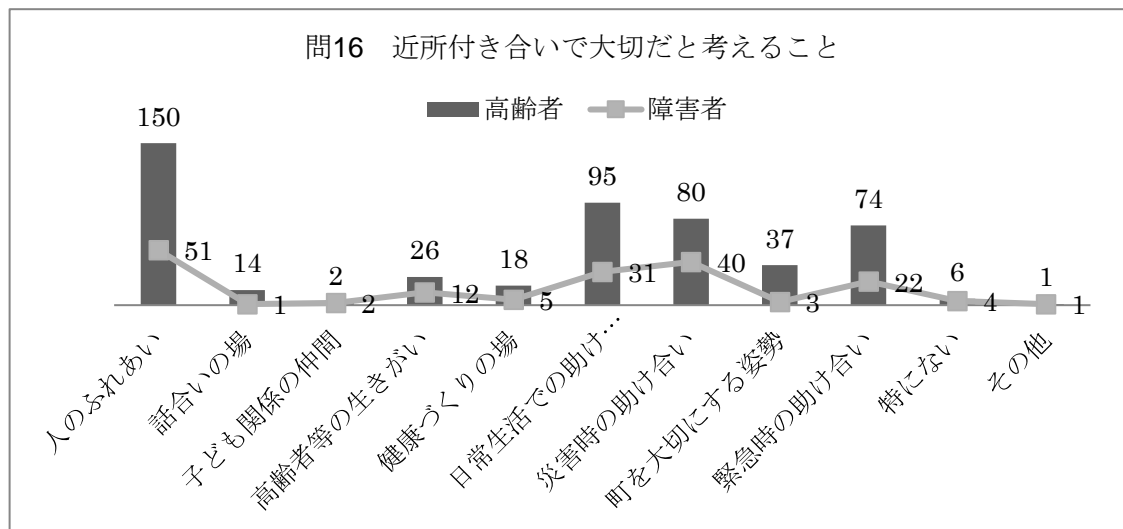
障害者

- 1位 家族や親族で解決できるから 68.0% (17人)
- 2位 近所の人に気を使うことが嫌だから 40.0% (10人)
- 3位 日頃から近所付き合いがないから 36.0% (9人)



高齢者、障害者ともに「家族や親族で解決ができるから」、「近所の人に気を使うことが嫌だから」が上位にある。「プライバシーが守られるかどうか不安だから」という理由は、高齢者が 17.6%であるのに対し、障害者は 32.0%と高い。

問 16. 近所との付き合いや関わりで何が大切だと考えますか。○は3つ以内



高年齢者

- 1位 日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい 66.7% (150人)
- 2位 日常生活で困ったときの助け合い 42.2% (95人)
- 3位 防災活動や災害時の助け合い 35.6% (80人)

障害者

- 1位 日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい 68.9% (51人)
- 2位 防災活動や災害時の助け合い 54.1% (40人)
- 3位 日常生活で困ったときの助け合い 41.9% (31人)

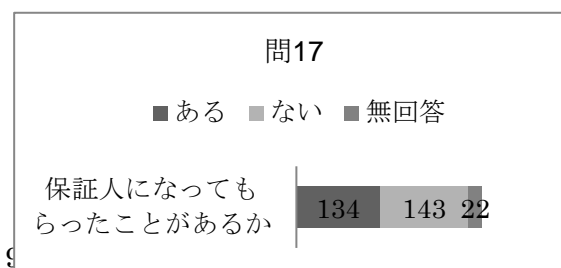
第3章 保証を支援する事業について

3) 保証人についてお伺いします。

ここでいう「保証人」とは、被保証人（契約者）とは別の人で、契約内容により被保証人の与えた損害等を担保することなどを求められる人を指します。（名称は様々あり、保証人、身元引受人、連帯保証人等と呼ばれています。）

問 17. 誰かに保証人になってもらったことがありますか。

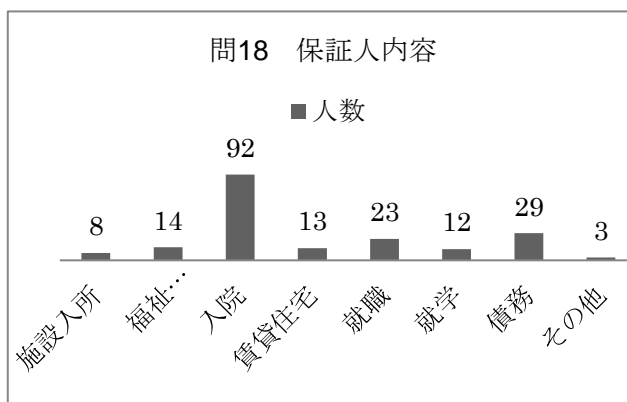
- ある 44.8% (134人)
- ない 47.8% (143人)
- 無回答 7.4% (22人)



問18. 何の保証人になってもらいましたか。○はあてはまるものすべて。(問17で「保証人になってもらったことがある」と答えた方のみ)

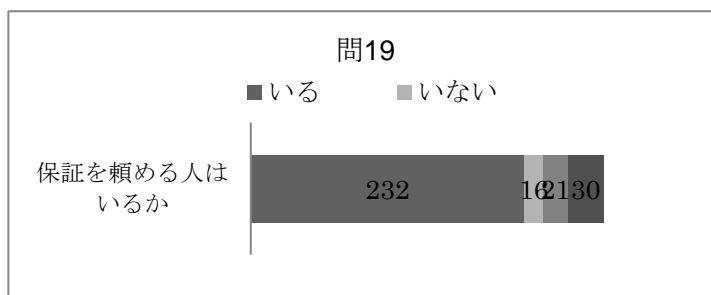
- 1位 入院 68.7% (92人)
- 2位 債務やローン 21.6% (29人)
- 3位 就職 17.2% (23人)

高齢や障害があることから入院時に保証人を必要とすることが多い。



問19. 保証人が必要になったとき、保証を頼める人はいますか。

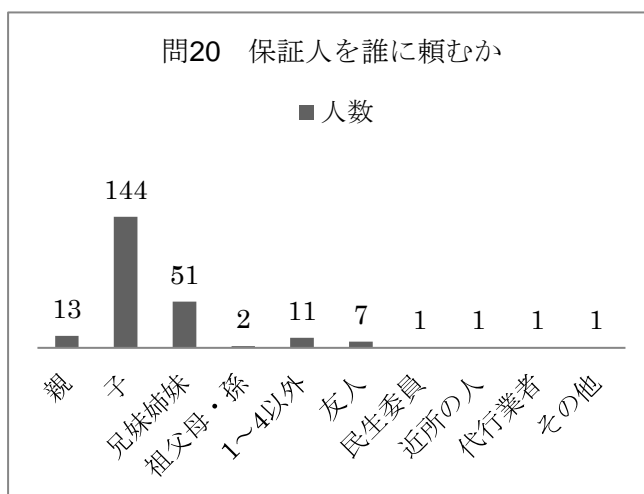
- いる 77.6% (232人)
- いない 5.4% (16人)
- わからない 7.0% (21人)
- 無回答 10.0% (30人)



問20. どなたに頼みますか。○は1つだけ。(問19で「いる」と答えた方のみ)

- 1位 子 62.1% (144人)
- 2位 兄弟姉妹 22.0% (51人)
- 3位 親 5.6% (13人)

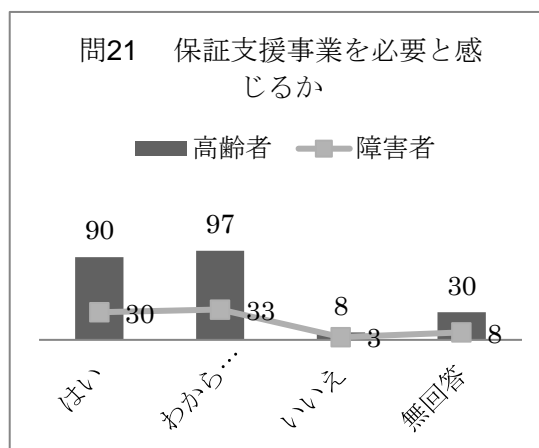
問4で家族と同居している方が多い伊那市においては、保証人を子どもに頼む方が多いと思われる。



問21. 伊那市社会福祉協議会では身寄りのない方等への保証を支援する事業を検討中ですが、必要なことだと感じますか。

高齢者
はい 40.0% (90人)
わからない 43.1% (97人)
いいえ 3.5% (8人)
無回答 13.3% (30人)

障害者
はい 40.5% (30人)
わからない 44.6% (33人)
いいえ 4.1% (3人)
無回答 10.8% (8人)



高齢者、障害者ともに「はい」と答えた方と「わからない」と答えた方が同程度である。わからない理由として、様々なことに「保証」を社会慣例として求められる部分があり、言葉には馴染みがあるが、「保証人」と「連帯保証人」の違いや、「身元保証人」や「身元引受人」とは何をする人なのかなど、はっきりとしたイメージがわからないからと思われる。保証を求める側も求められる側も、これらを整理することで、福祉的支援を必要とする方の権利擁護の観点に立った保証支援ができるのではないかとと思われる。

問22. どのような事業を期待しますか。(問21で「はい」と答えた方のみ。自由記述)

期待する保証支援事業

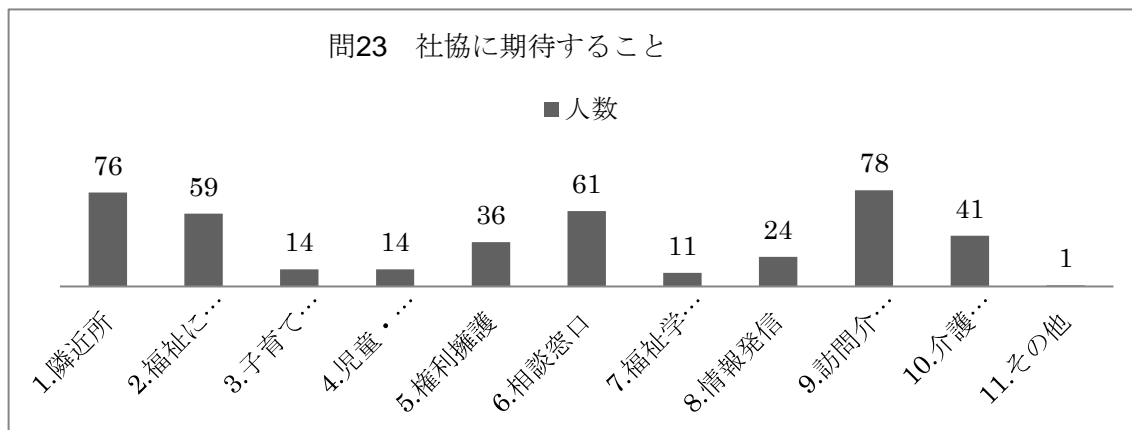
- ・身寄りがなくなったり、親が高齢になり保証人になることができなくなったときに対応してほしい。(類似11人)
- ・信用できる組織や仕組みであってほしい。(類似6人)
- ・入院や施設入所時に対応してほしい。(類似3人) など

個々の意見等については別紙掲載

第4章 伊那市社会福祉協議会について

4) 社会福祉協議会についてお伺いします。

問23. 伊那市社会福祉協議会に特にどのようなことを期待しますか。○は2つまで。



1. 隣近所どうしの助け合いの仕組みづくりとその充実
2. 福祉に対する要望の把握とサービスの企画や実施
3. 子育て支援や児童福祉サービスの充実
4. 児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育やボランティア活動等の充実
5. 権利擁護事業（認知症高齢者や知的障害のある方など、一人で判断することが難しい方に対する金銭管理等のサービスや福祉サービス等の利用支援）の充実
6. 福祉に関する相談窓口の充実
7. 福祉に関する学習会や講習会、講演会などの開催
8. 福祉に関する情報発信の充実
9. 訪問介護や通所介護などの介護保険サービス・自立支援サービスの充実
10. 介護保険や自立支援費制度以外の在宅サービスの充実
11. その他

全体

- 1位 訪問介護や通所介護などの介護保険サービス・自立支援サービスの充実 26.1% (78人)
- 2位 隣近所同士の助け合いの仕組みづくりとその充実 25.4% (76人)
- 3位 福祉に関する相談窓口の充実 20.4% (61人)

これらは人数的に僅差であり、それぞれに重要な内容である。

高齢者

- 1位 隣近所どうしの助け合いの仕組みづくりとその充実 28.0% (63人)
- 2位 訪問介護や通所介護などの介護保険サービス・自立支援サービスの充実 26.2% (59人)

3位 福祉に関する相談窓口の充実 20.0% (45人)

障害者

1位 訪問介護や通所介護などの介護保険サービス・自立支援サービスの充実 25.7%
(19人)

2位 福祉に対する要望の把握とサービスの企画や実施 23.0% (17人)

3位 福祉に関する相談窓口の充実 21.6% (16人)

問24. その他、ご意見やご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

主だった意見や要望

- (1) 買い物や通院など交通手段のこと
- (2) 福祉サービスのこと
- (3) 近所付き合いのこと
- (4) 地区、地域社協のこと
- (5) 福祉教育のこと
- (6) 相談窓口のこと

個々の意見等については別紙掲載

問 22 問 21 (伊那市社会福祉協議会では身寄りのない方への保証を支援する事業を検討中ですが、必要なことだと感じますか?) で「はい」と回答された方にお聞きします。
どのような事業を期待しますか。(自由記述)

《高齢者》

- ・将来は結婚しない人が多いので、身寄りのない方が増えていると思います。金銭管理など相談相手もいない人も増えることになると思うので、年をとっても安心して最期を迎えられるよう、介護も含め、精神的にもよい環境で生活していけるような支援ができると思います。
- ・現在、入院時や施設入所時に保証人になってもらえる人がいても、今後いなくなった時、社会福祉協議会等で保障支援事業を確立してもらいたい。
- ・保証人になってもらって、その人が事件を起こしたニュースなど聞かれます。そのため、信頼おける人や、その人が事件を起こした時にはその保証がきちんとできる法律など。
- ・結婚していない子どもが旅の空でお世話になっています。同じよう人が伊那市にも住んでいると思いますので、そういう人のため、是非保証をお願いできる事業が欲しいと思います。
- ・これからは身寄りがあっても保証人までなってくれない世の中になると思うので、その事業は必要だと思います。
- ・身寄りが無い、そういう立場に置かれたら、保証が必要な時の拠り所として、そこに行けば何とかしてもらえるとこの所は絶対に必要だと思う。
- ・身寄りが無いと保証人になってもらう人がいないと困るから。
- ・金銭的にも気持ち的にも負担がかからないように。
- ・今は空き家がたくさんあります。空き家を譲り受けるなどして、身寄りのない人を宅老所みたいにして楽しい憩いの場に、身寄りのない者同士語り合いの場を作ったらどうかと思います。故人になられた方を送り出す行事も一通り決めておく。
- ・身寄りのない方は不安があると思いますが、ひとつのしっかりした統合的に組織をつくり、その方が元気なうちに今後どうしたいかを聞き、見守っていければいいかなと思います。信用が第一なので、絶対的な組織であってほしい。
- ・入院時の保証。
- ・身寄りのない人がなにかあったときに、こういう支援があると安心してとても助かると思います。いつ自分がこうなるかわからないので、先のことを考えたときにやっぱり必要かなと思う。
- ・身寄りのない人の保証を助けられるのであればどんな事業でもよい。

《障害者》

- ・施設入所や入院のとき、すぐに対応できること。
- ・身寄りが無い方は自分が亡くなる時が不安だと思います。その時の心配がなくなるだけでも生きている時を楽しめるとは思います。問題がおきないように契約はかなり慎重に細かくしなければならぬと思う。
- ・距離的、時間的に身近にいてくれる人。難しいと思うが、心の中(例えばプライバシー等)にどかどか入り込んでこないような仕組み。あくまで、本人が少しでも自立できるように方向での手助け。信頼するに値するような人材、職員、担当者であってほしい。

何を行うにしても財産やわずかな支援金等へ手を付けたり、不正を行ったりしないような。

- 私も身内も年を重ねています。そんな時にすぐに頼める保証人がいてくれるだけで、日々の生活が安心できるような気がします。
- 両親が保証人になることができなくなったときに、保証を支援してほしい。一人暮らしをするときに家を借りたい、入院する際などに保証してほしい。
- 日常生活に困らないよう、生活に希望がもてるようにできれば最高です。
- 事業自体やるのはいいが、関わる人間がクズだと意味がない。

問 24 その他、意見や要望等ありましたら、ご自由にご記入ください。(自由記述)

(1) 買い物や通院など交通手段のこと

《高齢者》

- ・介護保険をしっかり払っているのに、今現在、一番不便している買い物、通院(伊那市)等への交通手段がないこと、タクシー券をもう少し考えてほしい。
- ・交通不便の場所に居住しているため、車の運転ができなくなった時に交通手段に困る。イーナちゃんバスの経路についても検討してほしい。(例として、伊那北方面から二条橋を渡るのを1時間に1本でも、ニシザワショッパーズ双葉店を通り、新水神橋を渡り、竜東線を経由して運行してほしい。)
- ・病院等の送迎
- ・自分が車を運転できるうちはいいのですが、運転できなくなった時の移動をどうするか考えてください。

(2) 福祉サービスのこと

《高齢者》

- ・介護保険料はどんどん増えているのに、サービスを受けようとする、介護度で制約があったり、利用者負担額が払えない人は、サービスを受けたくても家族が看なくてはならず、家族が仕事を辞めてまで介護をしている例が沢山ある。経済的に行き詰り、共倒れになる。多くの人の現状を把握して、若い人も年寄りも安心して人間らしく生きて行けるような福祉の充実を求めます。
- ・今のところ何とか暮らしておりますが、年を重ねていますので今後の事は不安です。「伊那市は福祉が充実していていいね。」と言われるような市にしていきたい。
- ・高齢者が増えるのは分かっているので、少しの認知症ぐらいでも入所できるような場所を作ってほしいです。
- ・伊那市は南箕輪や駒ヶ根より冷たい福祉のサービスを感じることが多い。もう少し幅のある、本当に求めている現状を知ってほしい。
- ・介護が必要となったとき、安心して施設入所や自宅で介護が受けられるようにしていきたいと思います。子どもがいても、それぞれの生活があるから仕事を辞めて親の事を看てもらうことはできないから。
- ・ケアマネ、地域包括支援センターとの協力、連携で早めに認知症高齢者に対するサービス支援を行ってほしい。
- ・社会福祉協議会にはお世話になっています。私としましては、何もかも至れり尽くせりと充実を望むのは贅沢に思います。戦中戦後の苦難の時代を過ぎして来た者には、社協の入浴サービス、昼食までいただいてほんとに有難いと思っています。今の人間は国や自治体に甘えることしか考えていない。どこの自治体もお金があり余っているわけでもないのにね。益々増える要介護、認知症はこれからどうなるのでしょうか。自宅介護の方に支援を充実させてください。私は認知症にならないための努力をします。その努力が生きがいです。
- ・訪問介護等の無料サービス。
- ・我が国も老人、子ども等に対する福祉が充実しつつありますが、先進国の良い例を

見習ってさら

に福祉国家と世界から認められるよう国民全体の意識高揚を図るべきだと思います。

- ・介護保険及び自立支援制度の充実を行い、誰でも入れる老人ホームの建設が必要と考えます。
- ・民生委員の充実
- ・都会と異なり、田舎に身寄りのない人がそれ程いると思わない。一人暮らしと身寄りのない人とは違うが、身寄りのない人（一人暮らしを含め）用の居住施設をつくり、集中して面倒などをみてあげたらどうか。
- ・遠くからの見守りではなく、時々安否確認できるシステムがしっかりできるような事業を期待します。
- ・少子化により子どもがいない、または子どもと離れて生活しているなどの世帯が増加する中で、一人で生活できなくなったとき、誰もが福祉施設に入所するわけではない。病院への付添いや手続きの代行、お金の管理（銀行、保険、税金申告）など。家事はヘルパー等あるが、それ以外のことで、絶対に必要だが本人ができないことをサポートしてほしい。
- ・ひとり暮らしで病弱であるような人の支援事業。病弱で働き口もなく生活に困窮している人の援助。
- ・支援ということも大変大事です。できる限り自立ということも大事だと思います。

《障害者》

- ・介護保険の枠を越えて、緊急時に利用できるショートステイなど。
- ・職員が障害者や認知症への理解ができるようになってほしい。
- ・金銭管理、ヘルパーの人たちで文句を言う方がいるのでやめていただきたい。（そのため、きらりあやヘルパーに電話をしても全然でてくれない。ヘルパーのスタッフで人の携帯を取り上げる人がいる。）

(3) 近所付き合いや助け合いのこと

《高齢者》

- ・当地区でも新居された方(新築された方)が区に入らない方が沢山おられます。そういう方たちは、部落の人たちと接触もないし、また、こちらから付き合いたくても、ちょっと難しいです。新聞で見ましたが、ある地区では『入区条例』を実施し、全戸入区されていると知りましたが、伊那市でも検討されてはいかがでしょうか。そうならば近所付き合いや助け合い等できる明るい部落になると思います。
- ・一人でいる方には顔を見れば話しかけるように心がけています。一人だと話し相手もほしいと思います。
- ・年をとってきたから、近くに自由にお茶でも飲めるようなところがあればいいなあと思う。皆で歩いて行って話でもできればいいと思います。
- ・地区でお茶会やお楽しみ会等あっても参加される方は 70 歳代ぐらいで 80 歳を過ぎた方はなかなか出席しません。お話をお聞きしたところ、出席して何か起きて皆さんに迷惑をかけたらいけないと思って行かないとのこと。もっと気楽に考えて多く

の方が参加できるようにしたいと思いました。

- ・ごく普通に生活しているときはあまり必要と感ぜないことが多いのですが、実際に必要となったときにその関わり方がわからない方が多いような気がします。一昔前の家族がどうしても看なくてとはいうことは少なくなっている.と思いますが、困っている方の情報を救い上げるのは大変なことだと思います。P・P・K(ぴんぴんころり)が一番です。
- ・隣近所の助け合いが必要だと思います。
- ・認知症や知的障害のある方に、助け合い所が悪口を広めて余計に家から出づらくするよう感じられます。みんなが温かく見守ることはできないのでしょうか。隣同士声をかけあうことも大切だと思います。近頃、回覧版や通知を郵便受けに入れて行ってしまいます。家に居ても相手の顔を見ることがないことが多くなりました。忙しい時代になったということでしょうか。
- ・隣近所同士助け合って生活していきたいとは思いますが、あまりうるさく世話を焼かれるのはどうかと思う。困っている人に対しても個人が手を出すのは難しい点もある。
- ・体が元気で働けて、自分で動けてなんでもできるうちは、あまり気にしなくて良かったが、年寄りを抱えて全て一人でするようになり、もし、これからできない時を思うと不安だ。雪かきや屋根の修理、ちょっとした修繕箇所などを見まわりに来てくれるようなことができるように願う。訪問介護の方がつい最近より来てくれます。困ったら電話をすればすぐに来ますと言ってくれ、心強く思います。私の住む所は町へは遠いので大変です。
- ・親切が仇になることもあるので、自宅に入る場合は複数人で対応するほうが良いと思います。その対象となったときの環境によって様々なので、「支援を受けてよかった」と思われる事項を本人から聞き取りしてからが良いかと思います。
- ・農村部より町の中の方が人付き合いなどなかなかできません。隣組の中ではお互いに声をかけ合っていますが、アパートのおられる方はわかりません。身寄りなのない方などが集まる場所を作っていただいで、皆がそこに行けば誰とでも話ができるといいと思います。
- ・隣近所の連携で身寄りのない人を支援する仕組みはできないだろうか。
- ・近所同士で助け合いながら暮らしていける地域にしていきたいと思います。誰もが年をとるから、できるときに少しでも他人の手助けをすることはどんな世であっても必要な事と思う。自分は一人でやっているが、まだそんな年ではないと思っていても体がもどかしい時がある。一生懸命に頑張って働くことの手助けを少しでも…と思って動いています。自分の信条としてやっています。
- ・友人があるから、話し相手がいるから…と言っても元気な方たちばかりです。何か自分だけのものを持つことが大事です。支援と自立の両論が心強いです。

《障害者》

- ・障害者が排除されたり特別視されたりするのではない、社会の一員としていられるようにはどのようなことなのか私自身考えてみるのだが…。はたして障害者の我が儘なのか(そればかりではないと思う)、とにかく住みにくい。健常者にとっても住

みにくい世なのだから…。少しでも、些細なことでも働ける場があればと思う。住まう場所、働ける場、そこからだと思う。

- ・助け合う、誰もが住みやすい地域社会大切だと思いますが、ご近所が高齢者・障害者がいることすら知らない所もあると思います。(今まで住んでいたところでは生活できず、住宅をかわる。又は子どもたちのところに移るなど)今は身内で看ているが、何らかの理由で看られなくなった時のことを考えてほしい。高齢者・障害者施設設立を考えてほしい。
- ・自治体(組)の活動が正直面倒です。いろいろ事務的に終わらないといいますが、様々な噂話とか本当に嫌だと思ふ事があります。でも、入らざるを得ない今の仕組みに疑問があります。私が精神を病んでいるのを知っている人は少ないので、役員とか回ってきますが辛いです。かといって、自ら「私は病気があるので役員はできない」とは言い出せません。その辺を配慮してくださる仕組みがあると有難いです。

(4) 地区社協や地域社協のこと

《高齢者》

- ・社協や町内会役員等でさらに事業を展開しようとすると、役員などにさらに負担がかかります。民間の事業所の力をできるだけ活用。
- ・地区の社協ができていますが、その事業は年2回の食事会と入浴の誘いだけで参加者が少ない。役員がご苦勞の割に実効がない。一考を。

(5) 福祉教育のこと

《高齢者》

- ・急に助け合いと言っても、相手の好みや性格が分からないと、どうすれば助けになるのかわかりませんから、隣近所は、または村内はお茶のみに呼ぶとか、話し合いをすとかの機会を多く持ちたいと思います。親類同士、また、近所で助け合っていければ社会の困ることは何もなくなると考えた高年齢の小学校の先生がいらっしゃいました。学校業はただ学問を教える目的だけでなく、地域の和と言うことを真剣に考えてくれるところであってほしいと思います。
- ・参考になる、ためになる DVD や CD の貸出事業
- ・最近思うことは、福祉のことだけに関わらず、何事にも関心がないように思われます。市が高齢者慰安会をしてくれても参加せず、うかがっても外出せず…。また、全般に若い人たちが社会のことに関心をもたず、このような人々にどう対処したらいいか考えてください。

(6) 相談窓口のこと

《高齢者》

- ・社会福祉協議会の方々、ますます安心して暮らすことのできる窓口を充実していただきます。いつでも気軽に相談できるところに・・・。
- ・介護保険の手続きをするときに役所の方が親切に説明し、動いてくださったことは感謝しております。何分にも初めての事であり、どうして良いか困っておりました

ので助かりました。これは私だけでなく、初めての方も同じだと思います。

- ・社会福祉協議会の相談窓口等ありますが、堅苦しかったり敷居が高かったりと、なかなか足が進まないような感じがします。もっと誰でも気軽に相談に行けるようなところであってほしいと思います。もう少し市民の足がむかうような事業所になるよう努力してほしいと思います。どうしても行きづらいイメージがあります。
- ・身寄りのない者は心細いもの、安心して相談できる、公的なところでしっかりしたものがほしいと思います。
 - ①定期的にどのように暮らしているか確認と声掛け。
 - ②暮らし上での経済的に問題がないか確認。
 - ③その他、心配事がないか積極的な聞き出し、掘り起し。(本人が「心配なことはない」と言っても、身だしなみや部屋の片づけなどから推察して)
 - ④隣組、近所同士の助け合いの仕組みは一概に良いとばかり言えないと思います。長いその人の暮らしてきた経緯やいきさつ、隣人の人柄によって問題が生じる場合があります。
- ・相談できる人がいることは大事です。一人の判断よりは第三者の考えも欲しいと思います。

《障害者》

- ・両親が高齢で介護が必要な状態です。私が入院したり死亡したりしたときにお任せできる方法をアドバイスしてくれる事業があったらいいと思います。

(7) その他

《高齢者》

- ・社会福祉という言葉さえなかったのではないかと思います。昔から考えると今日のこの考えはとても有難く貴重なことだと痛感します。とても大変なお仕事だと思いますが、これからいつお世話になるかわからない年齢になり、頑張っていたきたいなあとつくづく思います。その折はよろしくお願いします。
- ・いずれは自分も介護される立場になるときが来ると思います。皆様に迷惑をかけないうちに終わりが来ることを望んでいます。
- ・お役所らしいアンケートですね。これで何がわかりますか。もう少し具体的な質問方法があると思いますが。健康体の人には意味が理解しかねます。
- ・今のところ何とか暮らしておりますが、年を重ねていますので、今後の事は不安です。
 - ・経済負担の軽減の実現。
 - ・地域に通院や入院できる病院がほしい。
 - ・病気と病院についての相談 or 指導。
 - ・寄付を増やす。700円を1000円とか。
 - ・「オレオレ詐欺」等に合わないよう、金融機関等が毎月の生活費などを管理代行する商品を発売する。利用者の認知症等が悪化しないうちに、正常な判断が可能ならうちに契約を結ぶ。上記のことができるよう関係者に働きかける。民間事業者による見守り、安否確認をさらに進め、内容を充実させる。そのための働きかけをする。

- ・町の中に気軽に行ける銭湯をつくっていただけると嬉しいです。自分で運転できないので、イーナちゃんバスで行っています。12月でおしまいになるそうです。悲しいです。みなさんで考えてみてください。

《障害者》

- ・社会福祉協議会の皆様に感謝していますが、病気の由、時には不愉快な対応をどうしてもしてしまいます。色々なことがあり我が儘だと思いますが、ご理解をお願いします。常日頃の活動に感謝しています。
- ・前の市の福祉課でいろいろやられたので伊那市では真面目にやってもらいたい。親だというだけで預貯金額を調べ上げ、新たに財産をとられたり、障害者の等級を上げられて税金課税させられたり。高い診断書をもらう必要が無い。福祉についてはあまりいい印象はない。
- ・問 23（あなたは、伊那市社会福祉協議会に特にどのようなことを期待しますか）すべてに○を。ほんの少しでいいので、よくなったらと思います。
- ・いつもお世話なっております。昨年6月～障害者手帳をいただきましたが、認定していただくための手続きには正直申し上げますと、書類作りや病院での手続きも障害を持つ私もですが、身体障害者や知的障害者の方たちやその親御さん、ご家族はもっと苦勞していると思います。普通に暮らすことがどれだけ努力を要しているか、苦痛を背負っているかを理解してくださる方が一人でも多く居てくれる伊那市であってほしいと思います。
- ・私は恵まれている立場ですが、私の友人・同じ病治しての友人等、孤独な人や財産等何も持たない人、経済的、社会的すべてに弱い立場の人が多いため、一番は社会保障制度の充実、広報、教育的な格差等、社会的資源などうまく利用するような広報を。そうしても、こういう社会経済なので、生活保障に弾力的な運用をお願いします。(切に)
- ・社会福祉協議会が身寄りのない方の家族同様の働きをしたら安心して暮らせると思っています。